

野幌森林公園のクマ 「2、3歳の若い個体」

酪農大教授解説

【江別】酪農学園大（江

別市文京台）が20日、道立

野幌森林公園（江別市、札

幌市厚別区、北広島市）と周辺に出没しているヒグマの動画を公表し写真し、「親離れしたばかりの2、3歳の若い個体」など、生態の一端が見えてきた。専門家は「目に見えず不安が広がっていたクマを、実態あるものとして理解できる」とし、冷静に向き合う効果を期待している。

動画は大都市圏のヒグマ

の生態に詳しい酪農学園大環境共生学類の佐藤喜和教授（野生動物生態学）の研究室が撮影した。

カメラは小型動物の撮影が目的だった。クマの写った日時は11日午後5時ごろ。10日午後10時50分ごろに公園南端で目撃されており、佐藤教授は今回の映像と、江別市や道が19日までに確認した情報から「10日に南から入ったクマが公園内に滞在している」とあらためて説明した。

公園に入った理由については「競争相手のいない生息地を求めた若いクマが、従来生息していない場所に入った。初めての場所なので見回っているのでは」。ふんについては「アリや木

の葉など自然の物を食べ、人由来の物は食べていない」とした。

これまで人に悪影響を及ぼしていないことから、佐藤教授は「道の管理計画上の有害性はゼロで、駆除の話にはならないと思う」と強調。「真駒内公園や利尻島のクマも去った。森林公園にある程度滞在するかもしれないが、帰ると期待しつつクマが公園にいると認識して対応を」と訴えた。

周辺で取るべき対策としては①夕暮れ以降は公園に入らない②単独行動しない③生ごみ、ペットフード、鳥の餌は屋外に放置せず、臭いも出さない④果樹やハチミツの巣箱などは電気柵で覆うなどを挙げた。

佐藤教授はまた「人の物を食べると急激に行動が変わることがある。そうさせないよう人間が注意して」と求めた。周辺に集客施設が多いことについては「公園のクマが日中、人の多い場所に入ることはないだろう」との見方を示した。

（山本哲朗）

